

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第66回全日本大学バスケットボール選手権大会	期間 2014年11月24日(月・祝)
開催地 東京都	会場 国立競技場代々木第二体育館
参加者 田中 充	所属地区名 名寄地区
実践実技1	
日付け 対戦カード 相手審判	ゲーム前のカンファレンス内容など
2014年11月24日(月・祝)	対戦カード 男子1回戦 仙台大学(東北1位) 68 - 75 専修大学(関東10位)
副審 田中 充	相手審判 増淵 泰久 氏(栃木 AA級)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーとなるプレイヤーを早めに捕まえて情報を入れていく</li> <li>・悪い手の使い方に対しては早い段階で処理</li> </ul>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス	
日本協会・吉田正治氏より	
<p>プレイは捉えているので、もっと手の使い方に対して臆することなく判定して欲しい。 相手に任せるのではなく、つねに主審としてコートに立つつもりで居るともっと良くなる。</p>	
ゲーム感想	
<p>終始落ち着いてゲームに対して取り組むことができた。オフボールでもスクリーン等、色々なことが繰り広げられており、常に気を配っていないと、すぐにゲームから置いて行かれる感じでゲームが進行していた。その中で、時間帯によってプレーを捉えるのが遅れる場面もあり、修正を心がけながら取り組んだが、結果としてその捉えの遅い場面で多少のブレが出てしまった。ただ、接戦の中で1ゲーム大崩することなく取り組めたと感じている。</p> <p>ゲーム後にいただいたアドバイスについては、次のステップに向けてとても大切な部分だと感じている。いかにコート上で自分を出すことができるか。それによって、ある程度のゲームには対応できるようになると考える。</p>	
まとめ	
<p>私自身、これで4回目のインカレとなります。男子のそれも関東1部のチームの割当は初めてでしたが、過去のインカレ参加や関東学生での経験により、ゲームの入りから終始落ち着いて取り組むことができました。その結果、ゲーム内で自分の状態をしっかり自己分析し、ゲーム中に修正するポイントがこれまで以上にはっきりつかめてきているように感じます。できることであれば、高いゲームレベルであっても自分の悪い状態を出さずに、終始良い状態でコート上に居られるようにセルフコントロールを大切にしながらゲームを感じ取っていけるように、地区及び道内そして道外での経験を大切に積み重ねていきたいと考えています。</p> <p>最後になりましたが、今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。</p>	